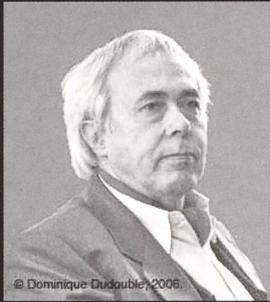


Alain Caillé
MAUSS

“経済”を審問する —MAUSSとともに—

2010.2.12-13

東京外国語大学／日仏会館



アラン・カイエ氏 (Alain Caillé, 1944-)

社会学・哲学博士。パリ第10大学(ナンテール)教授、博士コース「経済・組織・社会」を指導するとともに、SOPHIPOL (政治的・社会学／哲学／人類学研究室)の共同代表をつとめるが、なにより雑誌 MAUSS (Mouvement Anti-Utilitariste dans les Sciences Sociales: 社会科学における反功利主義運動)の創始者にして主幹として国際的に知られる。

モース雑誌 (La revue du MAUSS) は、社会科学と政治哲学を学際的に横断する研究誌として1981年に創刊、Editions La Découverte から刊行されるとともに、ウェブサイト (www.revuedumauss.com) も展開、近年は活発な議論のためのジャーナル・サイト (www.journaldumauss.net) も設けている。

アラン・カイエ講演会 (同時通訳あり)

日 時: 2010年2月12日 (金) 18:00 - 19:30

会 場: 日仏会館 1階ホール

司 会: 西谷修 (東京外国語大学大学院教授)

講 演: アラン・カイエ (パリ第10大学教授、MAUSS代表)

ラウンド・テーブル (同時通訳あり)

日 時: 2010年2月13日 (土) 13:00 - 17:00

会 場: 日仏会館 6階会議室

ゲスト: アラン・カイエ (パリ第10大学教授、MAUSS代表)

討議者: 渡辺公三 (立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)

西谷 修 (東京外国語大学大学院教授)

真島一郎 (東京外国語大学 AA 研准教授)

土佐弘之 (神戸大学大学院国際協力研究科教授)

司 会: 中山智香子 (東京外国語大学大学院准教授)



会場: 日仏会館

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3-9-25

【交通アクセス】

JR山手線: 恵比寿駅東口下車
恵比寿ガーデンプレイス方面へ 徒歩10分
営団地下鉄: 日比谷線: 恵比寿駅1番出口
アトレ・JR恵比寿駅東口を経由 徒歩12分

お問い合わせ: 東京外国語大学 大学院共同研究室 (旧国際協力講座)
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 TEL: 042-330-5439
日仏会館フランス事務所
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿3-9-25 TEL: 03-5421-7641 / FAX: 03-5421-7651

主催: 科学研究費プロジェクト (『戦争・経済・メディアから見るグローバル世界秩序の複合的研究』(研究代表者: 西谷修))
共催: 『マルセル・モース研究—社会・交換・組合』(AA 研共同研究プロジェクト)
会場提供: 東京日仏会館フランス事務局

東京外国語大学・旧国際協力講座を中心とする科研グループ（「戦争・経済・メディアからみるグローバル世界秩序の複合的研究」基盤研究 B、代表：西谷修）では、現在のグローバル経済システムの危機を根本的に考え直すため、フランスから MAUSS 雑誌の代表アラン・カイエ氏を招聘して議論の場を設定することになりました。

アラン・カイエ氏 (Alain Caillé, 1944-) は、現在パリ第 10 大学 (ナンテール) 社会学教授の職にあり、「経済・組織・社会」の博士コースを指導するとともに、SOPHIPOL (政治的・社会学/哲学/人類学ラボラトリー) の共同代表を務めていますが、なにより雑誌 MAUSS (Mouvement Anti-Utilitariste dans les Sciences Sociales 社会科学における反功利主義運動) の創始者にして主幹として知られております。

モース雑誌 (La revue du MAUSS) は、社会科学と政治哲学を学際的に横断する研究誌として 1981 年に創刊され、Editions La Découverte から刊行されるとともに、ウェブサイト (www.revuedumauss.com) も展開し、近年は活発な議論のためのジャーナル・サイト (www.journaldumauss.net) も設けています。

わたしたちが現在 MAUSS にあらためて注目するのは、この知的運動体がすでに四半世紀以上にわたって、現代の経済主義的社会統治の原理的批判を展開し、オルタナティブ理論の共同的練成に向けてたゆまぬ活動を続けてきたからです。

2008 年秋以降の世界経済危機は、たんにアメリカ式金融システムの破綻、あるいは新自由主義的統治イデオロギーの失墜というにとどまらず、さらに長い射程で、産業システムを軸とした経済主義的社会形成全般の危機を露呈したものと見ることができます (ここで資本主義という用語をあえて避けるのは、事態を資本主義/社会主義あるいは右派/左派といった、歴史的負荷の大きい硬直した理論的枠組みの中に落とし込んでしまわないためです)。

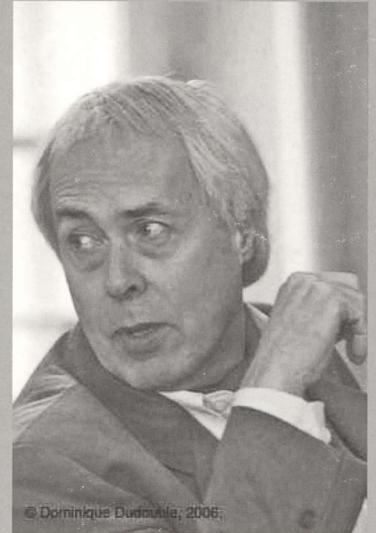
現在の経済危機の淵源とみなされる 70 年代初頭のドルの変動相場制への移行は、アメリカに新自由主義を台頭させ、これがやがて英米で主導権をとって以来、情報革命と「壁の崩壊」による市場一元化を通してグローバル化のイデオロギーとなり、市場原理主義を世界に広めました。その結果、政治が後退する経済主義的世界統治が語られもしましたが、ただしこの統治システムは「テロとの戦争」という超国家的「安全」保障体制を要請していました。そしてわれわれが現在目の当たりにしているのは、この新たな戦争レジームと新自由主義的統治の二重の破綻です。付言するなら、経済と軍事のカップリングによって政治をはじき出そうとしたこのグローバル世界統治システムとは、植民地支配として展開された産業化以後の西洋主導の世界化プロセスを、アメリカの「自由」のイデオロギーによって更新し、永続化するための装置だということです。

けれども、振り返ってみればその端境のころ、つまり 1970 年代初頭から、産業・経済主義的社会組成に対する根本的な異論や批判が現れてきていました。すでに K・ポランニーの市場経済批判がありましたが、N・ジョージesk=レーゲン、I・イリッチらが登場し、正統的経済学 (新古典派) や経済主義的ヴィジョンを支えていた「成長神話」が批判されるようになります。フランスではアンドレ・ゴルツやフランソワ・パルタンなどが、多様な角度からの批判を展開しました。

その流れを受けて、たんに新しい経済学を構想するのではなく、経済学を軸とした社会科学全般に浸透する「功利主義」そのものを審問して、人間社会を考察する別の知の方法を人文・社会科学の横断的な共同作業によって練成しようという目的で創設されたのが MAUSS です。いうまでもなくこの命名は、西洋近代の経済観念に「贈与」の概念で異論を突きつけた M・モースの名にかけています。

わたしたちの科研グループでは、経済や政治が根本的に問われているこの時期に、すでに必要な方向に向けて四半世紀の活動を展開してきた MAUSS 代表のアラン・カイエ氏を招き、その経験と成果について報告を受けるとともに、日本の関係者、関心を共有する方がたと議論の機会を作ることになりました。

なお、この企画は東京日仏会館フランス事務所の全面的な賛同を受け、講演およびラウンド・テーブルの会場を提供していただくことになりました。館長マルク・アンベール氏と研究員イザベル・ジロードウー女史のご厚意に感謝いたします。 (文責：西谷修)



© Dominique Dudouala, 2006.

Vers
une autre
science
économique
(et donc un
autre monde) ?



REVUE DU MAUSS N° 10
Mouvement Anti-Utilitariste dans les Sciences Sociales

Alain Caillé 主要著作

Théorie anti-utilitariste de l'action: Fragments d'une sociologie générale, Editions La Découverte, 2009.

Don, intérêt et désintéressement: Bourdieu, Mauss, Platon et quelques autres, Editions La Découverte, 2005.

Dé-penser l'économique: Contre le fatalisme, Editions La Découverte, 2004.

Critique de la raison utilitaire, Editions La Découverte, 2003

The World of the Gift, McGill Queen's University Press, 1999.